

募 集 人 員
募 集 期 間
受 講 料
お申し込み方法

お問い合わせ先

会 場 案 内

そ の 他

一般市民・大学生・高校生 30 名

平成 28 年 8 月 19 日 (金) ～ 9 月 15 日 (木)

2,000 円 (大学生・高校生は無料)

下の「払込取扱票」に記入の上、受講料の振り込み手続きをしてください。
通信欄には、職業、年齢を記入してください。先着順に受け付け、受講証をお送りします。
なお、大学生・高校生は、メールあるいは電話で、住所、氏名、電話番号、年齢を下記のお問い合わせ先にご連絡ください。

〒990-8560 山形市小白川町1-4-12 山形大学人文学部事務室
TEL: 023-628-4203 E-mail: jjsoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学人文学部／
1号館2階205教室

大学正門に入って正面の建物です。
受付は人文学部玄関にて行ないます。

【公共交通機関ご利用のお願い】

現在、山形大学小白川キャンパスでは、
駐車場が非常に手狭になっております。
公開講座当日はできるだけ公共交通機
関、または本学シャトルバス (山形駅～
小白川循環・料金 100 円) のご利用をお
願いたします。

シャトルバス運行時刻表

<http://www.yamagata-u.ac.jp/jp/life/etc/bus> 参照

なお、山形駅行きの最終便は 18:40 発となっております。
また、山交バス県庁前▶山形駅前行きの最終便は、南高前バス停 19:42 発、山形～仙台
間高速・都市間バス山形駅行きの最終便は、南高前バス停 23:24 発です。



平成 28 年度 山形大学 公開講座

「人文学部」

平成28年度
山形大学公開講座 [人文学部]

山形大学
Yamagata University

リスク 社会と危機管理 会

—法律・政治・行政の視点から—

平成28年 9月20日(火)～
10月18日(火)

講義時間-毎回
午後6時30分～8時10分
(計5回)

場 所：山形大学人文学部 講義室
対 象：一般市民・大学生・高校生 定員30名
受 講 料：一般 2,000円 **大学生・高校生は無料**
募集期間：平成28年8月19日(金)～9月15日(木)

【お問い合わせ先】
山形大学人文学部事務室
電 話：023-628-4203
E-mail: jjsoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

- 9月20日(火)
「リスク対応と記憶の継承」
立命館大学政策科学部 教 授 真 淵 勝
- 9月27日(火)
「行政法規によるリスク制御」
人文学部 准教授 和泉田 保 一
- 10月4日(火)
「非常事態と緊急事態条項について考える」
人文学部 准教授 中 島 宏
- 10月11日(火)
「リスクとしての国際テロリズム—国際法による対応—」
人文学部 准教授 丸 山 政 己
- 10月18日(火)
「リスク社会の文明史論的位相」
人文学部 教 授 星 野 修

この受領証は、郵便局で機械
処理をした場合は郵便振替の払
込みの証拠となるものですから
大切に保存してください。

ご注意
この払込書は、機械で処理し
ますので、本票を汚したり、折
り曲げたりしないでください。

この場所には、何も記載しないでください。

リサイクル適性 (A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

リスク 社会と危機管理 会

—法律・政治・行政の視点から—

日本は、世界の防災関係者によって、「災害のショーウィンドウ」と呼ばれています。じっさい、自然災害に限っても、地震、津波、火山噴火、台風、集中豪雨、豪雪、地滑りなど、枚挙にいとまがありません。他方、日本は、高度に発展した工業技術社会に特有の、技術文明の成果がそのままリスクとなって跳ね返ってくる《リスク社会》(U.ベック)の典型であり、福島第1原発の事故処理はその収束の目途すら立っていません。さらに、国境を越えたパンデミックやテロリズムの脅威にも晒されており、その意味では二重、三重のリスクを背負った社会です。

2011年3月11日の巨大災害の直後には、各種の対応策が検討され、その一部が実行に移されました。しかし、時がたつとともに、日本社会のリスクへの脆弱性とその脅威の記憶は薄れ、対応策もおぼろげにされつつあります。

本講座では、日本社会のこうした現状を鑑み、法制度と政治・行政の視点から、リスク脆弱型社会の現実と課題とを検討してゆきます。

01 9/20 「リスク対応と記憶の継承」

立命館大学政策科学部 教授 真淵 勝

科学技術の発展は一方でリスク対応の能力を高めています。しかし、同時に、科学技術の発展はリスクに対して脆弱にもしています。官僚制の発展などの社会工学上の発展はリスク対応の能力を高めます。しかし、それは同時にリスクに対して脆弱にもしています。人類の努力は、リスクへの対応において二律背反の様相を呈しています。

本講義では、私たちが直面するリスクを正面に据え、「災害先進国」日本として何をなすべきであるかを検討していきます。

＜専門領域 行政学＞



02 9/27 「行政法規によるリスク制御」

人文学部 准教授 和泉田 保一

社会のリスクを制御するために、行政法規は、企業等が危険発生可能性がある活動を行うに際して、何らかの規制を行うという手法を採ります。許可制等によりその経済的自由をある程度制限するわけです。法治主義国家においては、発生不確実なリスクに備えて自由や権利を制限することには一定の限界がありますが、しかし、それに失敗するとリスクの顕在化による悲劇が起こります。

本講義では、原子炉の設置規制等を例にして、行政法規によるリスク制御について、その実際や課題について見てゆきます。

＜専門領域 行政法＞



03 10/4 「非常事態と緊急事態条項について考える」

人文学部 准教授 中島 宏

東日本大震災の「教訓」として、憲法に緊急事態条項を新設するかどうか議論になっています。非常事態に備えるための法制度とは、どのようなものなのでしょうか。そもそも、非常事態とはなんなのでしょうか。そして、現行法はどうなっているのでしょうか。さらに、憲法に緊急事態条項を設けるべきなのでしょうか。この回では、非常事態の概念、国内外の法制度とその運用例等を検討しながら、「非常事態の法」について考えます。

＜専門領域 憲法＞



平成28年度
山形大学公開講座 〔人文学部〕

04 10/11 「リスクとしての国際テロリズム —国際法による対応—」

人文学部 准教授 丸山 政己

リスクや危機管理について考える場合、世界で頻発するテロリズムの問題を避けて通ることはできません。テロリズムの脅威に対しては、国際社会全体で取り組む必要があることは言うまでもありませんが、具体的な防止や事後的対応は、国家、自治体、個人のレベルで考える必要があります。本講義では、テロリズムに関する国際法の現状がどうなっているかを把握した上で、その関連で日本社会が抱えている課題とは何かについて考えてみたいと思います。

＜専門領域 国際法＞



05 10/18 「リスク社会の文明史論的位相」

人文学部 教授 星野 修

現代社会は、人為的な災害(disaster)の社会的《素因(vulnerability)》だけではなく、社会的《誘因(hazard)》をも不断に産み出し続けている社会です。リスクを拡大再生産し続ける現代社会の文明史論的位相を、ウルリッヒ・ベックのリスク社会論やポール・ヴィリリオのアクシデント論に依拠して、考察したいと思います。また、こうしたリスク社会の危険性から脱出する隘路を、どこに見出すべきかを探っていききたいと思います。

＜専門領域 政治思想史＞



02		払込取扱票		通常払込料金 加入者負担	
口座記号番号				金額	千 百 十 万 千 百 十 円
0 2 2 6 0 7 9 2 4 7 8				2 0 0 0	
加入者名		国立大学法人山形大学		料金	備考
※「リスク社会と危機管理—法律・政治・行政の視点から—」申込書		※この払込用紙は、1人1枚をご使用ください。(人文学部)			
※職業をお書きください。()		※年齢をお書きください。()			
※払い込み済みの受講料は返金できませんのでご注意ください。		※個人情報の利用について 提出いただいた書類の個人情報は、本公開講座の参加に関する手続きのみに使用し、第三者に開示・提供・預託することはありません。ただし、ご承諾いただける場合は、今後の公開講座やセミナー種のご案内を本学からお送りする場合がございます。□ 承諾する □ 承諾しない (いずれかをチェック願います)			
おとこ(郵便番号)		おなまえ		日 附 印	
※		(電話番号)		様	
裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行) (承認番号仙第8982号)					
これより下部には何も記入しないでください。					

各票の※印欄は、ご依頼人において記載してください。

切取らないでお出しください。

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。

振替払込請求書兼受領証

口座番号	0 2 2 6 0 7 9 2 4 7 8	通常払込 料金加入 者負担
加入者名	国立大学法人山形大学	
金額	千 百 十 万 千 百 十 円	
おなまえ	2 0 0 0	
※	様	
ご依頼人		
料金	日 附 印	
備考		